

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2294200759		
法人名	有限会社 花音		
事業所名	グループホーム 花音(Aユニット)		
所在地	静岡県静岡市葵区水道町126-1		
自己評価作成日	令和2年3月5日	評価結果市町村受理日	令和2年3月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/zz/index.php?action_kounyo_u_detail_2019_022_kani=true&lievosvoCd=2294200759-

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和2年3月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日々努めていることは要約して2つあり、1つは入居者様の健康と安全。2つ目は楽しいと感じて頂けているか。そのために、毎日数回に分けて行う体操やレクには 職員各々、工夫と努力をして、その成果も見られていると、外部の方、ご家族にも評価されています。また、入居者様にも制作に参加して頂き、季節ごと作り替える、室内装飾・ドア飾りも高評価を得ています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

玄関アプローチの花壇には多種多様の植物が配され、ちょっとしたウエルカムガーデンとなっています。平均介護度が2前後を推移する、デイサービスのような利用者集団のやりたいことを聞き取り、できることを引き出して、生活に喜びがあるよう職員一同尽力しています。例えば食レクでは、包丁をつかうこと等で残存機能が開花、現在では普段から洗い物に積極的になるなど功奏しています。ケア実践の仕組みづくりにも熱心で、『申し送りシート』と名付けた18名分がA4版に収まる「此処での利用者情報」を作成、「入浴後は水虫の薬を塗る」「火曜日は家族が面会来所」等が一目で判るため、「何度もファイルを繰るロス」も軽減しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ミーティング時に職員一同で声出し唱和の実践をして確認をしています。	理念は新しく導入するシートに記載に記載したり、フロアにも掲示のうえ、職員が集まる機会を利用して唱和もしています。また「変える必要はないか」「取組みやすいか」「覚えやすいか」など、職員間で年に1度見直しを図っています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	民生員や回覧板による町内とのつながりが確立でき、運営推進会議の連絡等で交流を深めています。	自治会に加入、回覧板も廻ってきています。歩ける人のみですが、地域の夏祭りには夜盆踊りに親に出かけたり、若松町のボランティア集団「ナツメロの会」3～5名が寸劇も交えた愉快的な時間を提供くださっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を活かし、業種別の第三者の出席を促し理解を増やしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域包括、他業種の出席が増え、活発な意見交換ができており、サービス内容の提案を頂く事もあり、サービスの向上、生活の豊かさを目指し努力をしています。	ハーモニカや尺八のボランティアでお馴染みの『市民とつくる街づくりの会』や訪問マッサージ師、介護相談員等、顔ぶれが豊富な運営推進会議を隔月開催できています。「ひやり・はっと」や「事故」報告も盛り込み、総じて丁寧な取組みであることを議事録で確認できます。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の介護相談員、生活支援課とのやりとりも密に協力関係を築いています。	毎月来所の介護相談員が、運動器具をつかった訓練があることを褒めてくださり、職員の励みとなっています。地域包括支援センターにからは利用者の紹介のほか、『安西番町圏域介護支援専門員連絡会』にも誘ってもらえ、ヨコの連携も叶っています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全体研修で理解を共有し、カンファレンス・申し送りで状況の確認をし、本人の行動の意味を考え、改善を模索しながらより良いケアに取り組んでいます。	一昨年度改正の身体拘束廃止未実地減算については、『身体拘束等の適正化チェックシート』を市へ提出のうえ指針を整備しています。身体拘束廃止委員会は現在運営推進会議でおこなっていますが、今後は協議を充実させるためにも所内での開催を検討しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修、施設研修を通じて、間違いのないよう学び、「虐待、言葉の暴力」防止の徹底に努め、対応の方法を話し合っています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する外部研修を受け、制度や必要性を学んでいます。成年後見人の利用者もいますので支援できていると思います。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居相談時より丁寧な説明を行い、必要に応じ納得頂けるよう疑問点を解決、理解に努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や来所時の意見、要望を外部協力機関に提示し、運営に反映しています。	家族には毎月請求書をとりよせてもらい、そこでコミュニケーションを厚くすることができています。バイタルや水分摂取量等の記録を見せつつ、1ヶ月の様子を伝え、「確認した」とのサイン得ており、家族との情報共有を確かなものとしています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者が管理者であり、常勤しているので話し合いの機会が来ている。夜勤帯に個別に聞き取りをしたり、職員と個別に面談する機会を設けている。	ミーティングが毎月1度開かれています。他にも職員から相談の声がかかることもあれば、気づきがあれば管理者からも面談に誘い、また有休休暇義務化やストレスチェックにも配慮し、概ね風通しのよい職場をつくれています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日常的に勤務状況を把握しており、職員間の評価も評価表を用い個々の情報を把握し、職場環境の整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ネット配信研修の受講と外部研修の機会を設け、多くの参加が出来る様に努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修を通じ、同業者との交流を増やしたいが、実際は多くの機会が作れない。今年度は圏域のケアマネ研修に事業者参加した。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	導入時には何度か面談し、安心して相談事を話して頂ける様に努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	最初の面談時にじっくりと話を聞き、家族の方の不安を取り除くよう努めています。要望も出来る限り対応し、サービス計画に反映し職員と共有しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族との会話を大切に、必要としている支援に気づき対応出来る様に努めています		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	言葉だけでなく、しぐさや目線等に気を配り、一方的な立場にならないように努めています。例えば一緒に衣類を片付けたり、食器洗いを手伝って頂いたりという場面では必ず感謝の気持ちを伝えていきます。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との連絡は密にとり、より良い関係を築けるように努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人の方の面会も多く、笑顔で話されています。職員も笑顔での対応を心掛けています。	在宅の頃からの趣味が今でもできる人はいないものの、此処で培った「みんなでトランプ」「数字合わせ」「塗り絵」に夢中な人はいます。また読書が好きな人は午後、独り居室でゆっくり過ごしているほか、家族と外食に出かける人は3名ほどいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中はなるべくフロアにいて頂き、体操やレクレーションを通じて関わりを持って頂けるよう努めています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、これまでの関係を大切にしながら相談や支援に努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	全職員が年間7回程度モニタリング担当する事で、本人との会話をする時間を作り、状況を把握するようになった。本人本位の立場になって希望に添うよう考えるようになった。	お風呂は「やりたいことを聞き取る」チャンスとしています。誰も住んでいない実家が気になることが判り、家族と半日確かめに出かけた例もあり、「豆で惹いた珈琲飲みたい」「お芋を毎日食べてた」との意向は『介護記録』に残し、家族と協力して実現しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人に関する情報を多角的に集め把握するよう努めている。得た情報は職員で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	健康観察、一日の生活を記録し変化があれば情報共有し、個人の能力や残存機能をモニタリングで観察し、申送りやカンファレンスで職員が一人一人把握するようにしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングを職員全員で行い、日々の様子や以前との変化に合ったケアをし、カンファレンスを行い共通したケアを実践、計画作成しています。	2表のサービス内容は簡潔ですが、4表の日課計画表は具体的です。輪番で『サービス提供状況報告書』の作成が義務づけられ、職員の研鑽となるとともに、長短目標とサービス内容に照らして評価した内容へ家族がコメントを入れることで、家族とのチームケアに結ばれています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	小さな変化、気づきも個別記録し、申送り・情報共有し、日々の変化を見落とさず、実践や介護計画に反映しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	多様な状況や家族の事情に細やかに対応しています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	安全で豊かな暮らしが継続出来る様、最大限の地域資源が協働出来る様支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	体調の変化や毎日の気付きを記入したものを受診時に渡し、適切な医療を受けられるように支援しています。	専門医に診てもらっていた人は在宅の頃からの医師を続けていますが、他16名は月2回訪問診療をおこなう協力医に変更しています。予め情報を医師に提出のうえ、非常勤の看護師と管理者で立ち合い、薬の変更や助言を記載して、再び医師に渡すという連絡シートを使っています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週3~4日の看護師職員勤務と 週1回の訪問看護師のサービスで 日々の様子を報告し、医療的アドバイス、指示を受け利用者様に反映しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族の方と病院関係者と面談し情報の共有を図り、納得できる様、話し合いをしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者様の日々の様子と、ご家族の希望に添える様に話し合い、最善なケアが出来る様、職員同士で協力しています。	非常勤なものの週3~4日勤務の看護師と、週1回訪問看護事業所からも看護師をお願いして、本件に心強い体制を築いています。『重度化対応・終末期ケア対応指針』は変化が見られたとき改めてとし、契約の時は利用者本人も元気なため、簡単な説明に留めています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に、急変・事故発生時の対応について研修と訓練を実施しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行っていて、消防署との連携もとれています。	法定訓練は「地震からの火災」と「水害」の想定で、年2回実施しています。大型台風もあったことから運営推進会議に出席している家族には避難方法について投げかけ、「ここで待機」を理解してもらっており、他の家族には議事録で伝えてあります。	避難方法と非難場所については改めて家族と合意するとともに「非常用災害ダイヤル」を使用した家族との連絡訓練をおこなうことを期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日常の支援の中で 利用者様が不快感を感じない様にな声掛けや対応に心がけています。	入浴時はタオルをかけるとのルールが慣行され、利用者のことを話す声が他の利用者の耳に入らないようにとの配慮や、「着替えは居室で」「扉を開けたまま作業しない」といったことは職員間で共有されています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の希望、要望を聞きながら、職員の一方的押し付けでなく、声かけしながら支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の状態、趣味を考慮してのレクの提案。本人のペースで休息、読書、器具リハなどしたり、希望を聞いて過ごして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時の着替え等、ご本人に決めて頂いたり、提案をさせてもらったりと本人希望や季節、気温に合った身だしなみを一緒に考え決めています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ケイタリングを主として利用していますが、イベント時などは利用者の好み聞いて提供し、毎月食レクとして参加型調理をしている。日常的には後片付け・食器洗いをしている	湯煎する形で業者から届いた献立を使い、ご飯と味噌汁は職員が調理しています。「野菜を豊富に」と味噌汁は具沢山です。食レクが毎月1回おこなわれ、包丁をつかうこと等で残存機能が開花、現在では普段から洗い物に積極的になるなど効果を生んでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は個々の健康状態に応じて盛り方や量を支えています、水分量は1300cc以上を目標に回数を多くしたり、声かけをし、なるべく多く摂取して頂いています		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアをなるべく、ご自分で行って頂き、出来ない方には職員が介助して口腔ケアを行い、清潔保持が出来ています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄管理表を見ながら、声掛け誘導し、車椅子の方には、2人対応の事もあり見守りしながら排泄のお手伝いをしています。	排泄管理表をつけていますが、平均介護度が1.9~2.2を推移しており、自分でトイレにゆける人が多くいます。自立でもトイレの間隔が2時間を超えそうなときは声をかけますが、「1時間半で失禁」とのリズムを把握している人には職員が定時にトイレに誘っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時、水、牛乳などを飲んで頂き、ココアと飲むヨーグルトや乳酸菌飲料を提供している。朝食後のトイレ誘導と、体操に腸活体操を取入れている。排便記録をつけ、服薬のコントロールも細かく対応している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回設定しているが変更可能で、入浴日は職員と一緒に着る服を選んだり、自分で用意出来る方は自分で行い、入浴時は1対1なので本人から色々話をして下さる事が、コミュニケーションがとれています。	入浴は週3回を目安としています。冬季は「温まって欲しい」として浴剤導入、柚子湯などの季節風呂にも取り組んでいます。湯に浸かり、身体がほぐれると十八番の唄を歌いだす人もいます。着脱着衣では湿疹などにも注視、何かあれば看護師に相談しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝が習慣の方は夜が不眠にならないよう時間を決めて起こしますが、入眠はテレビを見て遅めの方もいます。パジャマは3日毎寝具は9日毎に洗濯して気持ち良く眠れるよう支援しています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	用法容量と説明の服薬管理票を作成し、カンファレンス時や処方が変わった時などに薬の説明をしている。夜勤時の薬のセット時、薬の確認や目的、用法などの理解に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器洗い、掃除、洗濯物干し・取込み、花の世話、メモ作り、買い出し同行などやりたい家事の手伝い。選べるコーヒータイム。運動、体操、色塗り、脳トレ、歌等のレク。食レクへの参加。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	月毎にお楽しみ会を企画し、お出かけや、散歩など外出支援に努めているが、家族によっては定期的に外出して下さる。天候が良い日は中庭で体操や歌を唄い。買い出しに同行する方もいる。	4月桜の花見、5月菖蒲、藤、6月あじさい、11月紅葉狩りと、春と秋に外出行事を取り入れています。近所への散歩のほか、目前のスーパーマーケットへ1日おきに食材買い出しに出かける職員についてゆく利用者の姿もあります。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設内でお金を使用する事が無く、トラブルになるので、個人のお金はお預かりしていません。必要な物品がある時には利用者、家族に相談して、購入するようにしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や本人の考えを尊重して、やり取りが出来る様にしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清掃は頻繁で、清潔に保つよう努めている。レク担当職員と利用者様の共同で壁飾り等を作成し、四季折々に掲示を替え、楽しい空間作りをしています。	「花音(かのん)」にかけて、壁には五線譜に色とりどりの花を模した壁画が連なっていて、見事です。ジェンガタワーに一喜一憂の利用者が座る足元には職員手作りの愛らしい柄ゆきの足置きが見られ、「大切にされている」感が伝わります。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各居室には施錠せず、気の合った利用者同士が出入り出来る様にしている、又共用空間のフロアも明るい雰囲気作りに努めています。定位置以外にもくつろいで話が出来スペースも確保しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には危険と思われる物以外は、家族や本人の意思を尊重して過ごしやすい様にしています。	位牌やテレビ、カセットデッキが居室に在る人も居ますが、持ち込み状況は様々です。介護度が低いこともあり、自分の部屋を掃除する人もいます。それを見て「やりたい」と声が上がることあり、リスクを気遣いつつ、職員がフォローについて掃除をおこなう人もいます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各個人の能力が異なる状況の中で、それぞれの能力を理解し、安全面に注意しながら、各個人出来る事は行って頂く。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2294200759		
法人名	有限会社 花音		
事業所名	グループホーム 花音(Bユニット)		
所在地	静岡県静岡市葵区水道町126-1		
自己評価作成日	令和2年3月5日	評価結果市町村受理日	令和2年3月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.mhiw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2019_022_kani=true&JiyayouCd=2294200759-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和2年3月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日々努めていることは要約して2つあり、1つは入居者様の健康と安全。2つ目は楽しいと感じて頂けているか。そのために、毎日数回に分けて行う体操やレクには 職員各々、工夫と努力をして、その成果も見られていると、外部の方、ご家族にも評価されています。また、入居者様にも制作に参加して頂き、季節ごと作り替える、室内装飾・ドア飾りも高評価を得ています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

玄関アプローチの花壇には多種多様の植物が配され、ちょっとしたウエルカムガーデンとなっています。平均介護度が2前後を推移する、デイサービスのような利用者集団のやりたいことを聞き取り、できることを引き出して、生活に喜びがあるよう職員一同尽力しています。例えば食レクでは、包丁をつかうこと等で残存機能が開花、現在では普段から洗い物に積極的になるなど功奏しています。ケア実践の仕組みづくりにも熱心で、『申し送りシート』と名付けた18名分がA4版に収まる「此処での利用者情報」を作成、「入浴後は水虫の薬を塗る」「火曜日は家族が面会来所」等が一目で判るため、「何度もファイルを繰るロス」も軽減しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ミーティング時に職員一同で声出し唱和の実践をして確認をしています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	民生員や回覧板による町内とのつながりが確立でき、運営推進会議の連絡等で交流を深めています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を活かし、業種別の第三者の出席を促し理解を増やしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域包括、他業種の出席が増え、活発な意見交換ができており、サービス内容の提案を頂く事もあり、サービスの向上、生活の豊かさを目指し努力をしています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の介護相談員、生活支援課とのやりとりも密に協力関係を築いています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全体研修で理解を共有し、カンファレンス・申し送りで状況の確認をし、本人の行動の意味を考え、改善を模索しながらより良いケアに取り組んでいます。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修、施設研修を通じて、間違いのないよう学び、「虐待、言葉の暴力」防止の徹底に努め、対応の方法を話し合っています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する外部研修を受け、制度や必要性を学んでいます。成年後見人の利用者もいますので支援できていると思います。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居相談時より丁寧な説明を行い、必要に応じ納得頂けるよう疑問点を解決、理解に努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や来所時の意見、要望を外部協力機関に提示し、運営に反映しています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者が管理者であり、常勤しているので話し合いの機会が出来る。夜勤帯に個別に聞き取りをしたり、職員と個別に面談する機会を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日常的に勤務状況を把握しており、職員間の評価も評価表を用い個々の情報を把握し、職場環境の整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ネット配信研修の受講と外部研修の機会を設け、多くの参加が出来る様に努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修を通じ、同業者との交流を増やしたいが、実際は多くの機会が作れない。今年度は圏域のケアマネ研修に事業者参加した。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	導入時には何度か面談し、安心して相談事を話して頂ける様に努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	最初の面談時にじっくりと話を聞き、家族の方の不安を取り除くよう努めています。要望も出来る限り対応し、サービス計画に反映し職員と共有しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族との会話を大切に、必要としている支援に気づき対応出来る様に努めています		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	言葉だけでなく、しぐさや目線等に気を配り、一方的な立場にならないように努めています。例えば一緒に衣類を片付けたり、食器洗いを手伝って頂いたりという場面では必ず感謝の気持ちを伝えていきます。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との連絡は密にとり、より良い関係を築けるように努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人の方の面会も多く、笑顔で話されています。職員も笑顔での対応を心掛けています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中はなるべくフロアにいて頂き、体操やレクレーションを通じて関わりを持って頂けるよう努めています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、これまでの関係を大切にしながら相談や支援に努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	全職員が年間7回程度モニタリング担当する事で、本人との会話をする時間を作り、状況を把握するようになった。本人本位の立場になって希望に添うよう考えるようになった。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人に関する情報を多角的に集め把握するよう努めている。得た情報は職員で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	健康観察、一日の生活を記録し変化があれば情報共有し、個人の能力や残存機能をモニタリングで観察し、申送りやカンファレンスで職員が一人一人把握するようにしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングを職員全員で行い、日々の様子や以前との変化に合ったケアをし、カンファレンスを行い共通したケアを実践、計画作成しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	小さな変化、気づきも個別記録し、申送り・情報共有し、日々の変化を見落とさず、実践や介護計画に反映しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	多様な状況や家族の事情に細やかに対応しています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	安全で豊かな暮らしが継続出来る様、最大限の地域資源が協働出来る様支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	体調の変化や毎日の気付きを記入したものを受診時に渡し、適切な医療を受けられるように支援しています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週3~4日の看護師職員勤務と 週1回の訪問看護師のサービスで 日々の様子を報告し、医療的アドバイス、指示を受け利用者様に反映しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族の方と病院関係者と面談し情報の共有を図り、納得できる様、話し合いをしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者様の日々の様子と、ご家族の希望に添える様に話し合い、最善なケアが出来る様、職員同士で協力しています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に、急変・事故発生時の対応について研修と訓練を実施しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行っていて、消防署との連携もとれています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日常の支援の中で 利用者様が不快感を感じない様にな声掛けや対応に心がけています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の希望、要望を聞きながら、職員の一方的押し付けでなく、声かけしながら支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の状態、趣味を考慮してのレクの提案。本人のペースで休息、読書、器具リハなどしたり、希望を聞いて過ごして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時の着替え等、ご本人に決めて頂いたり、提案をさせてもらったりと本人希望や季節、気温に合った身だしなみを一緒に考え決めています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ケイタリングを主として利用していますが、イベント時などは利用者の好み聞いて提供し、毎月食レクとして参加型調理をしている。日常的には後片付け・食器洗いをしている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量は個々の健康状態に応じて盛り方や量を支えています、水分量は1300cc以上を目標に回数も多くしたり、声かけをし、なるべく多く摂取して頂いています		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアをなるべく、ご自分で行って頂き、出来ない方には職員が介助して口腔ケアを行い、清潔保持が出来ています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄管理表を見ながら、声掛け誘導し、車椅子の方には、2人対応の事もあり見守りしながら排泄のお手伝いをしています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時、水、牛乳などを飲んで頂き、ココアと飲むヨーグルトや乳酸菌飲料を提供している。朝食後のトイレ誘導と、体操に腸活体操を取入れている。排便記録をつけ、服薬のコントロールも細かく対応している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回設定しているが変更可能で、入浴日は職員と一緒に着る服を選んだり、自分で用意出来る方は自分で行き、入浴時は1対1なので本人から色々話を下さる事があり、コミュニケーションがとれています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝が習慣の方は夜が不眠にならないよう時間を決めて起こしますが、入眠はテレビを見て遅めの方もいます。パジャマは3日毎寝具は9日毎に洗濯して気持ち良く眠れるよう支援しています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	用法容量と説明の服薬管理票を作成し、カンファレンス時や処方が変わった時などに薬の説明をしている。夜勤時の薬のセット時、薬の確認や目的、用法などの理解に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器洗い、掃除、洗濯物干し・取込み、花の世話、メモ作り、買い出し同行などやりたい家事の手伝い。選べるコーヒータイム。運動、体操、色塗り、脳トレ、歌等のレク。食レクへの参加。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月毎にお楽しみ会を企画し、お出かけや、散歩など外出支援に努めているが、家族によっては定期的に外出して下さる。天候が良い日は中庭で体操や歌を唄い、買い出しに同行する方もいる。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設内でお金を使用する事が無く、トラブルになるので、個人のお金はお預かりしていません。必要な物品がある時には利用者、家族に相談して、購入するようにしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や本人の考えを尊重して、やり取りが出来る様にしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清掃は頻繁で、清潔に保つよう努めている。レク担当職員と利用者様の共同で壁飾り等を作成し、四季折々に掲示を替え、楽しい空間作りをしています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各居室には施錠せず、気の合った利用者同士が出入り出来る様にしている、又共用空間のフロアも明るい雰囲気作りに努めています。定位置以外にもくつろいで話が出来するスペースも確保しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には危険と思われる物以外は、家族や本人の意思を尊重して過ごしやすい様にしています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各個人の能力が異なる状況の中で、それぞれの能力を理解し、安全面に注意しながら、各個人出来る事は行って頂く。		